

当社の歩みとみなさんに期待すること



⑥



「ちょっとした成功で満足せず、恐れることなく挑戦してほしい」と話す松尾代表取締役社長
■県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

丸協食産代表取締役社長

まつお つとむ
松尾 努氏(43)

「夢はありますか」と、まず尋ねたい。なりたて姿はあと思うが、なろうとするのは並大抵のことではない。夢は1人ではかなえられない。夢の読み方を変えれば「YOU ME」と書く。YOU(あなた)とME(私)、誰かの支えがあって成しえることだ。

私はレーサーになるのが夢だった。20歳くらいのころは仕事を掛け持ちし、稼いだお金はほとんど車につき込むほど、

失敗恐れず夢に挑戦を

「次回は27日に掲載します」
(後藤洋平)

のめり込んだ。レーサーにはなれなかったが、夢にチャレンジできたことはよかった。当社は牛肉や豚肉、鶏肉、バラエティミート(内臓肉)を加工している。27歳で入社した。前職は造船の仕事をしていたので、畑違いの業界に飛び込んだ。不安はあったが、決めたからには徹底してやり抜

こうと自分に言い聞かせた。肉の部位や特徴は、知れば知るほど奥が深い。どんな仕事でも興味を持って取り組み、自然と好きになる。苦労した結果は成功につながる。創業(松尾淳一相談役)は義理の父に当たる。創業者の父は養豚業で、母はホルモン店を営んでいた。いつも食

べていたホルモンが好きで、多くの人に食べてもらいたいと、1974年に加工会社を開いた。当時、ホルモンはまだ全く認知されていなかった。諸説あるが、捨てるものの「放るもん」が語源の一つと言われる。それを創業者は「口の中に放るもんだ」と言い続けていた。

「小成に甘んじず 大成に目を向けよ」という言葉を最後に伝えたい。今、ちょっとした成功で満足している若者が多い。大きなビジョンを掲げ、大きな夢にチャレンジする人が減っている。失敗は成功の入り口だ。恐れることなく挑戦してほしい。

ホルモンも一般的な食材になったが、まだ伸びしろはある。たくさんの人に食べてもらい、食卓に笑顔を増やしたい。思いから会社を引き継いだ。ホルモンの商品アイテムは約350あり、おそらく数では日本一だろう。もつ鍋ブームの一翼も担った。他社がやっていないことを先駆けて商品化を目指してきた。それが、経営理念の「一步先の食肉文

化をクリエイトする」を物語る。当社が目指す姿は「ビッグな会社よりグッドな会社」。認知度は低いと思う。それでいい。社員が伸び伸び働いて、居心地がいいと思える会社になりたい。大学では基礎知識は当然だが、コミュニケーション力が身に付けてほしい。社会では重要な。学生のうちに、いろんな人と触れ合うことがスキルとなる。基礎を身に付けておけば、どんな会社に行っても戦える。